

第8回 NBK フェスタ 21「ニュービジネス・ゲートウェイ関西」

基調講演「商店街根性が日本のビジネスをダメにする」

宋文洲（株式会社ソフトブレイン創業者）



●ゼロ金利は誰のため？

私は、現在の金融危機からの回復は日本がいちばん遅いと思っています。それは、失敗に対する恐怖心、失うことへの過剰な恐れが、日本人の気持ちのなかに充満しているからです。

金融危機で何が起きたか？ 円が5パーセント上がっただけで、日経平均株価が6000円台になりました。なぜか？ 儲からないからです。なぜ儲からないか？ 日経を構成する225銘柄の多くは、海外に製品を売っています。みなさんが自慢しているものづくりは、円高になるとまったく儲からないんです。

だから日本は10年間もゼロ金利なんですね。ものをつくっていない人が、ものづくりのためにゼロ金利を我慢しなければいけない。ものづくりがそれほど素晴らしいのであれば、なぜそこまで為替操作に依存するんですか。これはどう考えてもおかしい。

●中小企業は社長しだい

北大の大学院を出て、私はある中小企業に就職しました。その会社が、じつは就職して3か月でつぶれたんです。それまで「愛社精神」と言っていた社員が、とたんに「あの社長は山師だ」と。社長はリスク意識が薄かっただけなんです。給料も直前まで払ってたんですよ。私はあの修羅場を見て、日本人の神話に対する疑いをもちはじめました。

優秀な社員を求める経営は甘いと思います。そんな社員を雇ったら、高い給料を払っても、半年でライバル会社に移籍されますよ。だから、ほどほどでいいんです。使い方しだいです。そういうビジネスモデルです。「企画も営業も生産も、おれが一人で仕切るんだ」。これが中小企業の社長です。人間としても立派だと思いますよ。癖は強いけど、誰にも頼らない。

●ビジネスは変化を恐れない

そういう人たちにあこがれて起業し、一部上場した時点で、私は引退の準備に入りました。

た。私は企業に変化を求める前に、自分に変化を求めるべきだと思うんです。人生の変化を受け入れる能力がなければ、企業に変化を求めることは不可能です。

商店街を見てください。競争してはいけませんね。和を大事にしますね。いちばん嫌うのは変化です。安定が大好きです。それなのに儲けたい根性が悪いんです。商店街そのものは、べつに悪くはない。でも、それはビジネスではありません。儲けたいと思ったら、和なんて気にしてられないんです。「おれは経営者としてやっている」という人は、早くその矛盾に気づいてください。

失うことへの過剰な恐れ、うしろ向きの姿勢を、なくしてしまえばいいんです。戦後の日本人がもっていた、あのすがすがしい気持ちを、みなさんは忘れていた。私はそれが、いまのビジネス、教育、人生にいたるまで、すべての分野に共通する課題ではないかと思っています。